

# 第3回 小山市まちづくり総合交通戦略策定協議会

## 会議録

日時：平成27年2月13日（金） 15時00分～16時30分

場所：小山市役所 大会議室

出席者：（委員）18名出席、1名欠席（オブザーバー）5名出席

事務局：小山市都市整備部都市計画課

### 1. 開会

### 2. 挨拶（委員長）

### 3. 議題

～事務局より資料説明～（「まちづくりと連携した交通施策」）

～質疑～

（委員 A）駐輪場は小山駅、間々田駅、思川駅で整備完了となっているが、小山駅の東口に整備する計画があると思うがどうなのか。

（事務局）東口の駐輪場の拡幅については情報を十分に把握できていない。

（事務局）内容の話が高岳引込線に偏りすぎているように感じる。金額の提示をしてほしいとお願いしているがどうなっているのか。

（事務局）来年度以降、公共交通の検証のなかで需要予測などを行い、その次のステップで事業費が出てくる。昨年度の勉強会の費用は概算なので提示できないと判断した。

（委員 A）一年前の勉強会で提示した金額には、線路以外の土地の買収費は入っておらず、あれだけの金額になっていた。この会議で確認できないと先に進めない。会議の参加者にも偏りがある。高岳引込線沿線に住まわれている委員が多い。交通戦略に位置付けられて新交通システムの整備が進んでいくことに抵抗がある。

（事務局）金額については、参考値としての提示もあると考えたが、まちづくりのなかで必要性を議論してもらうことが先決だと考えた。お金が先行したら検討自体が止まりかねない。どこかの段階で事業費が出てくるが、その時に判断する時期がくると思う。来年度以降も新交通システムの検討を進めていく必要があると考えているので、事業費の議論で中座するのは残念だと考える。

（委員 A）新交通システムはあった方がよいと考えているが、概算費用がわからないと議論できない。一年前もコンサルタントへの委託費でお金がかかっているのではないか。

（事務局）前提条件や導入するシステムによって費用は変ってくる可能性がある。まちづくりとの連携の仕方によっても変動するものである。

（委員長）採算性の検討にはいろんな前提条件が必要である。事務局としては、効果とコストをより広い選択肢のなかから選ぶ必要があると考えているということではないか。需要や収

支予測を先に持ってきた方がよいという意見だと思うが、需要については関連するプロジェクトとどれだけ連動できるかで変わってくるだろう。

(委員 B) 栗宮や羽川に新駅設置の検討とあり、また、総合計画や都市計画マスタープランにも新駅の検討が記載されているが、JR との関係をもどのように考えているか。全体的な鉄軌道のなかで高岳引込線の活用が出てきたと思っているが、中期から長期ではなく、今ある軌道を活用して地元の高齢者対策を含めてまちを活性化していくのなら、短期でも実現できるのではないかと。JR との調整などはどのように進捗しているのか聞きたい。

(事務局) 新駅については、都市計画マスタープランの中で、羽川、犬塚、栗宮の3箇所を「まちの駅」として表記している。鉄道の駅に限定せず、バスの乗り継ぎ拠点なども含めて、公共交通を使いやすくしていく位置づけである。新駅設置の条件としては、まちづくりが進み利用客が見込めることが必要であり、次の段階として JR と協議していくことになる。現段階ではまだ JR との協議まで至っていない。ただし、犬塚については、小山東部第一、第二区画整理事業が組合施工で進んでおり、新駅の設置に関する需要予測などの調査や検討はすでに行っている。

#### ～事務局より資料説明～（「高岳引込線の活用展開」）

#### ～質疑～

(委員 A) 高岳引込線を活用した新交通システムの検討の進め方は、採算性の検討から始められないのか。採算性が見込めるようであれば、実施してもよい事業と考える。車両を2台、3台に仮定するなどして事業費は出せるのではないかと。本協議会の当初より、勉強会で試算した事業費を出してほしいとお願いしているが、回答がないのはなぜか。採算性が一番の判断材料になる。

(事務局) 本協議会で検討する小山市まちづくり総合交通戦略は、小山市全体の計画であり、その中で、計画の一部として、高岳引込線の有効活用を検討していく必要があることを位置付けたいと考える。高岳引込線だけを触れるのであればそれだけの計画となるが、目指しているものはそうではなく総合的な計画である。また、来年度以降、詳細の検討を進めていく中で、事業化の是非を判断する時期がくる。したがって、今の段階で事業費などを算出してもあまり意味がない。

(副委員長) 国土交通省がコンパクトシティを推進する一方で、経済産業省などの他の省庁はスマートコミュニティや高齢化対策、エネルギー対策などを推進しており、各省で補助金を持っている。総合的な観点から考えることが必要であり、様々な切り口から考えていくことが望ましい。スマートコミュニティ事業で LRT の蓄電サポートなどができれば費用を削減できる。そのために多角的な検討を今のうちから実施することは悪くない。

(委員 A) 国の補助金活用というがそれも同じ税金であることに変わりない。富山市の事例はもともと電車が通っていた路線であり、小山市の高岳引込線は沿線に工場も多く、単純な参考にはならない。今年度はコンサルタントの委託費に500万円も使っているにもかかわらず、来年度も800万円の予算が計上されており、その間にバス一台を走らせられるのではないかと。

(副委員長) 魅力的なまちをつくることのできる素地が小山市にあると考え検討している。このまちからメッセージを発信できるのではないかと。単に鉄道の事業費だけでなく、いろいろな価値を含めて、可能性を検討したい。関係者との調整の必要もある。すでに軌道敷があり、沿線に住宅もあるなど、富山市との共通点もある。様々な観点から材料をそろえて、検討していきたいと思う。

(委員 A) 来年度検討して中止になったらどうするのか。

(委員長) 事業収益以外の効果もある。採算性は判断材料の一つであり、それだけで単純に判断することはできない。どのような可能性があるかを含めて今後も検討していきたいというのが事務局の意向だと認識している。

(委員 A) 一度、バスを走らせたらかどうか。

(委員長) 議会では調査費に対する予算について、どのような意見があったのか。議会で承認されたのではないかと。

(委員 C) これから車両やシステムを検討していく必要があり、事業化自体はまだ決まっていないと認識している。地元は高岳引込線を有効活用したコミュニティづくりやまちづくりを望んでいる。

(委員 D) 勉強会はしてきたが 4 回で中断した後、交通戦略の話が出てきた。小山市はコミュニティバスやデマンドバスで網羅された全国的にみても評価の高いまちであり、その中で高岳引込線の活用が出てくるのでかみあわないと感じる。バスとの連携も考慮したに方向で、高岳引込線の有効活用を考えたらよいのではないかと。

(委員 E) LRT の話が出てうきうきしている。事業費を先行して検討することはできないのか。再開ビルが撤退するなど、まちの衰退を懸念している。新交通システムを導入したい。まちの活性化の切り札になるものと期待している。

(事務局) 7、8 年間は採算はとれないと考えるが、そこで期待するのは周辺のまちづくりで利用者を増やすことである。20 年、30 年で赤字なら問題だがそうではない。勉強会の中では、先進地の結果などを踏まえて、概算で 20 億円と試算したことをお話した。ただし、その時は、高岳引込線の敷地内での事業という前提で、用地費などは考慮していない。

(委員 A) なぜその数字を出すことができないのか。

(事務局) 他市を参考に出した概算を協議会では提示できない。

(委員 A) 数字を出さずに検討がどんどん進み、整備されてしまうのではないかと不安である。

(事務局) 委員 A の言うように順調に進むとは考えていない。課題がたくさんある。国から補助金をもらえば全て解決するというようなことも考えていない。将来の小山市を見据えた時に、市民の喜びになればと思い、検討している。まだまだ検討段階である。

(委員 A) 新交通システムがあるかないかと言えば、あった方がよい。今年度だけでなく来年度以降も調査費がかかることについて、他の委員にも考えてほしい。

(委員 F) 今後人口が減少していくなかで、人口の維持・増加を図ることができるかが重要。地元の委員の意見を聞いてほしい。

(委員 G) 新交通システムができればここに住み続けたいと思う人が増える可能性はあると考える。前向きな考え方で議論していきたい。採算性よりも、もっと先のことを考えたい。

(委員 C) 新交通システムができれば沿線の価値がもっと上がる。現在は踏切が 2 箇所しかなく、

生活に不自由しており、これまで3回市に陳情している。

(委員 B) まちづくりを前面に考えていきたい。人口減少をどのように捉えてまちづくりをしているのか。イメージを持って高岳引込線の活用を考えていけるかが課題であり、これは本協議会の使命であると認識している。

(委員 H) 勉強会はこれまで何回か行ってきた。まちづくりの観点から高岳引込線の活用を検討してきた。沿線の住民と話し合いをして、行政に意見を出してきた。これからもよい方向で進むように意見を言っていく方がよい。

(委員 I) 高岳引込線について意見を言っていきたいが、小山市全体のことも勉強していきたいと思っている。採算性は大変重要である。企業が戦略を立てるときなどには不可欠なものである。今年度500万円をかけていると聞いて驚いたが、議会には本会議の目標や価値、最終目標を決めてほしかった。来年度は論点や結論を明確にした方がよい。高岳引込線の詳細な議論に早く入っていきたい。

(委員 J) 高岳引込線の活用に期待している。私の住む地区にはバスが通っておらず、バスで小山駅に行く場合にも遠回りしてすぐ着かず、時間がかかる。将来は車に乗れなくなるので、中心市街地の病院にも行けなくなる。沿線の住民は、高岳引込線を活用した新交通システム導入に対する賛成の意思表示として、基金を集めてもよいと考えているし、自治会でも負担金を出してもよいと話しが出たくらい、欲しがっている。高岳引込線沿線では、年間10戸程度の住宅が建っているが、新交通システムができればもっと住宅が増えると思う。また、耕作放棄地も増えてきているので、その面でも期待している。実現を望んでいる。

(委員 K) 高岳引込線の所有者としては、これまで通り三つのスタンスは変わらない。一つ目は、高岳引込線を活用することは問題ない。二つ目は、製品を出すときには優先して使えるようにさせてもらいたい。三つ目は、新交通システムの導入に費用は出せない。小山市全体の交通を考える中で、たまたま高岳引込線があったということであり、そこに新交通システムを導入するとすれば採算性がどうなるのか。赤字になるようなら、どのような智慧が出せるのか。それでよいのではないか。

(委員 F) 地元の声はご覧の通りである。実現に向けて検討を進めていきたい。

(委員 E) 受益者となる地元の委員の方々とは、前向きにざっくばらんに議論していきたい。

(委員長) 本日の意見を踏まえて次回はまとめの議論をしたい。小山市全体の交通戦略の中で、高岳引込線の有効活用を今後も検討していくことを位置付けることが、今年度の成果になる。

#### ～事務局より連絡事項～

(事務局) 次回の協議会は3月19日(木)を予定している。

以上